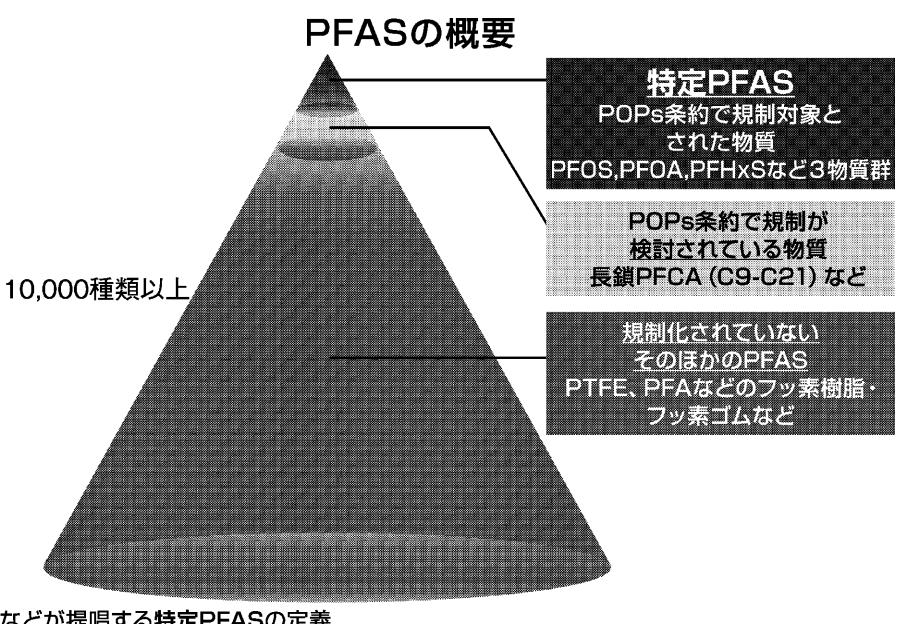


A black and white brochure for Rigaku's PFAS analysis services. The top left features the Rigaku logo and the headline "PFAS分析をより効率的に". Below it is a sub-headline "蛍光X線分析法による全フッ素分析" and a circular icon showing two analytical instruments labeled "ZSX Primus IV" and "ZSX Primus IVi". To the right, there are four small images: "PFAS分析対象" (Soil, Plastic, Paper products), "試料調製" (Sample preparation), "測定" (Measurement), and "装置にセット" (Instrument setup). A large circle on the right is divided into three segments: "01 短時間で分析可能" (Analysis completed in short time), "02 装置にセット" (Instrument setup), and "03 測定" (Measurement). Below this is a box stating "リガクの製品ならPFAS分析全作業完了に要する時間 10分". The top right corner contains contact information: "お問い合わせはこちら デモ測定受付中", "「PFAS × 波長分散型蛍光X線分析」", a QR code, and the website "rigaku.com/ja/talk-to-an-expert". The bottom half features a large image of the MSA-0101 series leak test system, with the headline "PFASを使わない乾式の漏れ試験 (フッ素系不活性液体など)" and a detailed description of the product's features and applications.

EUで検討進む PFAS規制 対策と関連技術



※JFIAなどが提唱する特定PFASの定義
難分解性、生体蓄積性、長距離移動性、毒性が確認され、残留性有機汚染物質に関するPOPs条約で規制（廃絶・制限）された物質 ⇒ PFOS、PFOA、PFHxSおよびそれら関連物質
なお、特定PFASについては、今後の規制状況では物質数が増加することがある。
※本図はイメージであり、正確な比例関係を示すものではない。

PFA_Sとは、社会で広く使われている数多くの有機フッ素化合物の総称だ。

1940年代ごろから普及はじめ、耐水耐油性、熱・薬品に強い、光を吸収しない、非電気性、耐候性、潤滑性、化学的安定性などの優れた特性を持ち、撥水撥油剤、界面活性剤、洗浄剤、表面処理剤、半導体用反射防止剤、金属めつき処理剤、殺虫剤、乳化剤、コーティング剤など、半導体産業、電機・電子・通信、エネルギー、医療機器、分野などの幅広い分野で使われ、産業に欠かせない存在となつている。

PFA_Sは1万種類以上存在するともいわれ、自然界や体内で分

製造現場・産業に欠かせぬ存在

製造現場・産業に欠かせぬ存在

有機フッ素化合物の総称である「PFCAS」。非常に多くの種類があり、生活用品、産業・工業用品やその製造現場などでは欠くことができない物質だ。その科学的安定性ゆえに自然分解されず、ほぼ永久的に環境に残留するため、「永遠の化学物質」とも呼ばれる。物質によっては環境汚染や人間の健康に対する潜在的リスクが指摘され、規制に向けた動きも出ている。

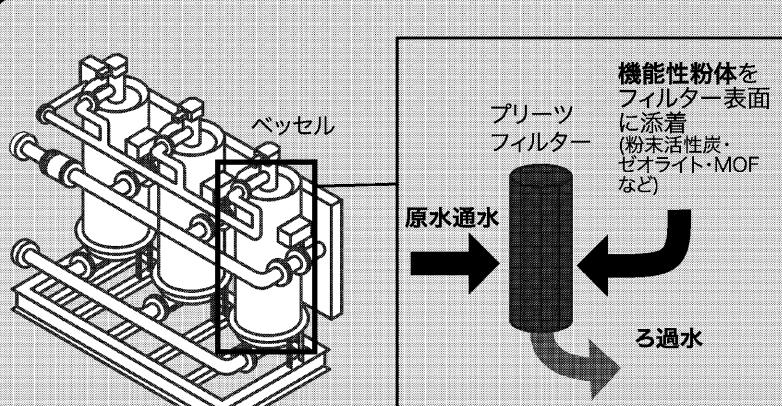
PFAS処理の最適解

ECO Clean IFP

高い吸着能力 完全オートメーション 低環境負荷

InterAqua 2025

PFAS除去に効果的な技術展示・セミナー登壇！



PFAS濃度 (ng/L)

処理方法	PFAS濃度 (ng/L)
原水	1,330
LFP処理	ND

PFAS処理に高い効果を発揮！

高濃度PFAS PFOS・PFOA・PFHxS合算値 1,330 ng/Lを

不検出

まで淨化!

水質・処理量に応じて最適な処理方法を提案します

ミヤサカ工業

日 吉

リ ガ ク

フ ク ダ

流機エンジニアリング

ミヤサカ工業

日吉は環境測定や水質検査といった分析・測定業務を中心に手がける創業70年の分析事業会社。PFAS分析では公的機関との共同研究実績もあり、その知見を生かして水質、土壌、食品などを多様な媒体を使って分析・測定。豊富な経験と優れた課題解決力を持つ。最新鋭の液体クロマトグラフタンデム質量分析装置（LC-MS/MS）を用いた分析では、極めて低い定量下限まで対応する。

年間4万検体以上の分析実績があり、試験所の認証規格「ISO17025」も取得。水道法第20条に基づく水質検査機関、食品衛生法登録検査機関など90以上の事業許認可を保有し信頼性の高いデータを提供している。

ミヤサカ工業が製造・販売する非常用浄水器「コックくん飲めるゾウシリーズ」は、PFASにおけるPFOAとPFOSを除去できる。中でも「RO」「BIG1-RO」「BIG-2」の3機種は、PFOA、PFOSを含む全てのPFAS除去が可能。河川、池、井戸、プールなどの水を飲料水にことができる。いずれも農薬ヒ素などの毒物も除去できる逆浸透膜（RO膜）を使用している機種である。

近年、水道水源の井戸水からもPFASが検出されている。同社の浄水器は井戸水などの災害時や非常時の水源の净水を主な用途としており活用が期待される。

リ ガ ク

同社の波長分散型蛍光X線分析装置は、簡単な試料調製かつ非破壊で測定が可能だ。プラスチックを分析する場合、試料調整から10分以内に測定結果を取得できる。全フッ素量の検出限界値が1 ppm当たり50 ppbで、フッ素化合物添加有無の判別に有効だ。同社では、フッ素分析のデモ測定や相談を積極的に受け付けている。

日吉は環境測定や水質検査といった分析・測定業務を中心に手がける創業70年の分析事業会社。PFAS分析では公的機関との共同研究実績もあり、その知見を生かして水質、土壌、食品などを多様な媒体を使って分析・測定。豊富な経験と優れた課題解決力を持つ。最新鋭の液体クロマトグラフタンデム質量分析装置（LC-MS/MS）を用いた分析では、極めて低い定量下限まで対応する。

年間4万検体以上の分析実績があり、試験所の認証規格「ISO17025」も取得。水道法第20条に基づく水質検査機関、食品衛生法登録検査機関など90以上の事業許認可を保有し信頼性の高いデータを提供している。

フ ク ダ

フクダの「MSA-0101」はPFASを使わない小型電子部品用の気密検査装置。以前から定評があるグロスリークテストシステムのMSシリーズを改良し、汎用性と利便性が向上した。グロスリークテストでは液没試験が主流だが、環境保護の観点からもPFASを使わない圧力変化による気密試験の需要が今後も増加すると見込む。

同製品は卓上タイプで、デバイス開発時の試験、量産ライン投入前の事前実験、抜き取り検査などの少量検査に最適だ。

同製品以外にも全数検査が可能な気密検査機やファインリーケテストも兼ねる複合機などを用意し、顧客の幅広い要望に応える。

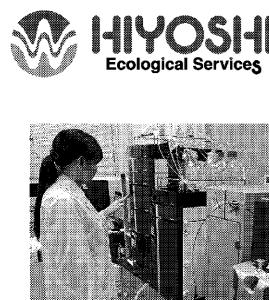
リガクはX線分析装置の専門知識を生かし、PFAS分析で効果的な分析手法を提供している。PFAS規制に伴い製品やリサイクル品の検査需要が増え、従来の液体クロマトグラフ質量分析計（LC-MS/MS）などよりも短時間で全フッ素含有の有無が判断できる手法が求められている。

流機エンジニアリング

流機エンジニアリングの吸着式濾過装置「ECOクリーンLEP」は、PFASを効率的に除去できる。粉末活性炭を探用し、活性炭の能力を最大限に生かした。

また、活性炭の添着から濾過吸着、洗浄剥離、再添着までを全自动で行い、粉体の取り扱いにまつわる煩雑さを解消した。

同装置は従来の粒状活性炭に比べ吸着効率が高く、運用コストを大幅に削減できる。環境省の委託事業である地下水汚染の浄化実証試験では、国内メーカーとして初採用された。PFAS3種の濃度の合算値において、処理前は1 ppb当たり1330ナダーだった水が処理後に「不検出」となり、除去性能の高さを示した。



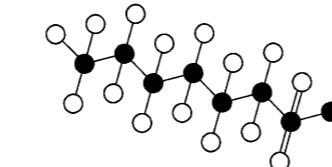
PFAS 検査

PFOS・PFOA・PFHxS

創業70年の信頼と実績。年間40000検体の実績で安心の環境分析サービスをご提供

株式会社日吉

T 523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄908
Tel 0748-32-5001 / Fax 0748-32-4192



全国各地の地下水で
検出されています



ライブ配信セミナー

PFAS規制の最新動向と対応策、想定される代替手段

日刊工業新聞社は、ライブ配信セミナー「PFAS規制の最新動向と対応策、想定される代替手段」を2025年1月22日13時半から17時まで開催する。

フッ素樹脂およびフッ素樹脂コーティングの専門家を講師に迎え、PFAS規制の最新動向から制限案の詳細までを解説する。

WEBミーティングツール「ZOOM」を使用するWEBセミナーで、受講料は3万8500円（テキスト代・録画視聴・消費税込み）。申し込み締め切りは25年1月22日13時。

問い合わせは日刊工業新聞社西日本支社総合事業本部セミナー係（06-6946-3382）まで。

1月22日